

研究・調査報告書

報告書番号	担当
277	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Ethnic composition of schools affects episodic heavy drinking only in ethnic-minority students. 学校の民族構成は少数民族の生徒においてのみ多量飲酒エピソードに影響する	
執筆者	
Monshouwer K, Van Dorsselaer S, Van Os J, Drukker M, De Graaf R, Ter Bogt T, Verdurmen J, Vollebergh W.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Addiction. 2007 May;102(5):722-9.	
キーワード	
思春期、飲酒、少数民族、学校	
要 旨	
<p>目的： 学校に関連した要因（学校のアルコールについての方針、学校の民族構成）が、個人レベルの要因を考慮に入れたうえで、生徒個人の多量飲酒エピソードを説明するかを検討する。</p> <p>研究デザインと対象者： データは、2003年の薬物使用についてのドイツ国民学校調査（総数 7324 名、12-16 歳）のものを使用した。</p> <p>方法： 教室で行われた、生徒の自記式の質問票により、アルコールや他の薬物の使用、社会的あるいは行動に関する情報を収集した。多層ロジスティック回帰モデルを用いてデータ解析を行った。</p> <p>結果： 学校の民族構成と多量飲酒エピソードの間に関連がみられた。少数民族の割合が比較的高い（10-30%）学校で多量飲酒エピソードの確率は低かった。すなわち、少数民族の生徒の割合の高い学校に通学する少数民族の生徒の多量飲酒エピソードのリスクは低かった（オッズ比 0.69、95%信頼区間 0.47-1.00）。多量飲酒エピソードと関連のある学校の方針はなかった。</p> <p>結論： 学校生活では、仲間をモデルとし、強化されることで個々の生徒の飲酒行動は形成されるが、グループのメンバーであるというある種の帰属意識とそれによる社会的コントロールは必要だろう。学校の方針は生徒の飲酒行動に影響はみられなかった。学校のパーティーや遠足といった特定の機会でしか学校の方針に触れないことが理由として考えられる。</p>	